

特定中山間保全整備事業「^{おおちせいぶ}邑智西部区域」
効率的整備手法検討第三者委員会（第2回）議事概要

1 実施日 平成18年7月4日(火) 13:30～15:30

2 場所 農林水産省 林政部会議室

3 出席者

- ・第三者委員 伊藤 勝久 島根大学生物資源科学部教授
齊藤 秀生 (財)自然環境研究センター主席研究員
服部 重昭 名古屋大学大学院生命農学研究科教授
濱田 年騏 島根大学名誉教授
福櫻 盛一 島根大学名誉教授
宮城 道子 十文字学園女子大学人間生活学部助教授
(敬称略、五十音順)
- ・事務局 農林水産省農村振興局農地整備課長ほか

4 議事の概要

- (1) 補足説明及び意見交換
前回の第三者委員会での意見を踏まえ、補足説明及び意見交換を行った。
- (2) 第三者委員会の意見
第三者委員会として意見のとりまとめが行われた。(別紙のとおり)

(別紙)

特定中山間保全整備事業「邑智西部区域」効率的整備手法検討 第三者委員会の意見

特定中山間保全整備事業「邑智西部区域」効率的整備手法検討第三者委員会の意見は、次のとおりである。

中山間地域において、森林と農用地を一体的に整備する本事業は、条件不利地域において適切な森林管理と農用地の利用を促進するために必要な事業であり、事業の実施により、地域の農林業の振興及び農山村の活性化、さらには森林と農用地の有する公益的機能の維持増進が期待できる。

整備計画は、効率的・効果的な整備となるように工夫されているが、より一層の効率的・効果的な整備となるように、以下の点に留意願いたい。

【整備内容】

森林整備については、現場の状況に応じて、作業を省力化するところ、人手を入れるところを明確に区分し、メリハリのある施業方法で実施することが必要である。これにより、地域にあった森林整備のモデルとなるように取り組むことを期待する。

農用地整備にあたっては、地域農業の担い手形成等、将来ビジョンの実現に向けた取組と連携を密にして事業を推進する必要がある。

農林業用道路は、農林業の利用のみならず、地域の生活道路として、また都市と農村の交流促進の道路としての機能も大いに期待される。このため、安全性の確保には、より一層の配慮をする必要がある。

【コスト縮減】

現場発生材の有効活用や直営施工の導入などのコスト縮減の取組は、効率的・効果的整備手法として有効であり、取組の成果を積極的にPRすることを期待したい。

【環境配慮】

環境に配慮した整備を効果的に実施するためには、現場の情報を十分に収集し、条件に応じて手法を変更するなど、臨機応変に施工を行うことが重要である。

事業の実施においては、生態系や景観などの環境配慮のみならず、現場発生材や地域資源を有効利用するなど、地域の資源循環にも貢献する取組を期待したい。

以上の点に留意し効率的・効果的な整備に積極的に取り組むとともに、整備後の利用を促進するため、地域住民の理解と協力を得られるように努める必要がある。

さらに、本事業について、広く国民の理解を得るために、費用対効果で数値化されている効果のみならず、定性的な効果も積極的に示していくことが重要である。そのため、数値化が困難な効果についても、事業前後の状況が把握できるデータを整備しておくことが必要である。